



各地区で町政座談会を開催

7月15日の鳥上地区を皮切りに町政座談会が各地区で開催されています。町政座談会とは、町民の皆さんからの意見や要望を町執行部が直接伺い、町政に反映させるための場です。

各会場には、自治会長をはじめ各種団体の代表の方など多くの地区住民が出席し、その地区が抱える3つの重点意見・要望

よりのよき町を目指して



を基に、活発な議論が行われました。

また今年度は、国や県が積極的に取り組んでいる「小さな拠点づくり」「地域運営（自主）組織」について、雲南市や全国の事例を用いて住民主体の持続可能な地域づくりにかかる情報提供を総務課から伺いました。

なお、今回の座談会で話し合った重点意見要望の内容とその回答は、町広報9月号に併せて自治会回覧をする予定です。

日本遺産ガイド養成

たたらの魅力発信

カルチャープラザ仁多で7月7日、「日本遺産ガイド（仮称）養成講座」が開講し、町内外から約30人が受講しました。

この講座は日本遺産に認定された「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」の観光ガイドを養成することを目的に、奥出雲観光文化協会と雲南市観光協会、安来市観光協会が共同で開催しています。

第1回の講義では元奥出雲たたらと刀剣館館長の尾方豊さんを迎え、たたら歴史やしくみについて学びました。

この講座は全10回となっており、修了後はガイドとして活躍いただく予定です。



「ねがいましては〜」

そろばん大会で腕を競う

8月2日、第49回雲州そろばん珠算競技大会が町民体育館で開催されました。

この大会は、珠算技術の向上と基礎学力の増進、雲州そろばんを通じた地域振興を目的に、奥出雲町商工会と雲州算盤協同組合が毎年開催しています。

中四国や関西地方の小学生から大人まで187人が出場し、町内からは12人の小中学生が出場しました。

緊張感に満ちた会場は開始の合図と同時にパチパチとそろばんをはじく音が響き、選手たちは真剣な眼差しで取り組みました。



山陰新幹線実現に向けて

鳥取市で1,700人規模の決起集会

日本海側を經由し関西、九州を結ぶ「山陰新幹線」実現を目指す「山陰新幹線の早期実現と北陸新幹線京都府北部ルート」の決定を求める決起大会が7月30日、鳥取市・とりぎん文化会館で行われ、勝田町長ら町の関係者が参加しました。

この大会は鳥根、鳥取など7府県の49市町村でつくる山陰縦貫・超高速鉄道整備推進会議（会長・深沢義彦鳥取市長）の主催です。

山陰新幹線は大阪市から鳥取、松江市付近を經由して下関市に至る路線として、昭和48年に基本計画が閣議決定されてから40年以上進展がない状況が続いています。そのカギを握るとされる北陸新幹線の未着工区間ルート（福井県敦賀～大阪間）については、早ければ年内にも決定すると言われており、比較検討されている3つの候補のうち「京都府北部ルート」（小浜市～舞鶴市を經由）が山陰新幹線整備実現に大きな意味を持つものとされています。

当日は各市町村の首長に加え、石破茂衆議院議員、青木一彦参議院議員ら「山陰新幹線を実現する国会議員の会」（石破茂会長）に参加する国会議員のほか、商工会、建設業関係者などおよそ1,700人が出席し、実現に向けて奮起を誓い合いました。



▲山陰新幹線実現に奮起を誓う石破茂会長。勝田町長も登壇して実現を求めました。

木次線開業100周年を記念して

おろち号の記念ヘッドマーク初披露

本年10月に迎えるJR木次線の開業100周年（大正5年開業：宍道～木次間）を前にしたイベントが7月2日、JR木次駅で行われました。トロッコ列車「奥出雲おろち号」の記念ヘッドマークが初披露されるなど、多くの来場者で賑わいました。

このイベントは沿線市町などでつくる木次線開業100周年記念事業実行委員会（委員長・勝田町長）とJR西日本米子支社が開催しました。

当日のセレモニーにあたり、勝田町長は「木次線は生活の足として欠かせない存在。事業を通じて利用促進を図りたい」と挨拶。勝田町長と雲南市四ツ葉学園保育所の園児らによる、記念ヘッドマークの除幕式も行われ、沿線住民や県内外の鉄道ファンが見守りました。

機関車側のヘッドマークには、奥出雲町の稲穂をイメージした黄色を背景に青いオロチが描かれ、客車側のヘッドマークには黒を背景に紅葉をイメージした赤いオロチが描かれています。本年11月まで、記念ヘッドマークを付けて運行されます。

なお、100周年記念式典は、10月8日に木次駅で行われる予定です。



▲勝田町長と園児らによる除幕式の様子